

## 『夜の寝覚』における大君・中の君姉妹の関係に関する研究

A study of the relationship between the Great princess and the sisters of the Middle princess in  
"Yorunonezame"

小川 あかり  
Akari Ogawa

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード：平安後期物語、夜の寝覚、兄弟姉妹  
Key words : Late Heian period tale, "Yorunonezame", Siblings

### 1. 研究目的

平安後期物語『夜の寝覚』は、五巻あるいは三巻の伝本が現存するが、中間と末尾に大きな欠巻部を持つ物語である。作者は未詳であるが、先行研究では菅原孝標女説が有力視されており、『更級日記』や『浜松中納言物語』との類似点の指摘もなされてきた。本物語は中の君（寝覚の上）を主人公に据え、悩みの絶えない女の人生を緻密な心理描写で描いた点で、物語史上画期的な作品であるとされている。先行研究は女主人公中の君の人物造型に関して論じるものが多数を占めており、『源氏物語』に登場する宇治の大君・中の君姉妹の物語の影響をはじめ、先行する他の物語との関連についても指摘が多い。その反面、中の君以外に重点を置いた研究はいまだ少なく、研究の余地が残されているのが現状である。

本研究では、先行研究も踏まえつつ、特に物語前半部について、主人公中の君の兄弟姉妹、特に関係の深い大君に焦点を当てて考察を行う。先行研究の関心は中の君のみに集中しがちであり、その人物像や物語世界における人生の歩みを、兄弟姉妹との関係にまで視野を広げて論じているものは少ない。そのため、女性を主人公とする物語である『夜の寝覚』が、中の君の最も身近な周辺人物である兄弟姉妹を、中の君との関係性のもとでどのように描いたか、という問題を中心に論じていく。大君の人物造型のあり方を、妹である中の君や、『源氏物語』の宇治の大君との比較から分析し、その上で大君・中の君姉妹の関係の描かれ方を明らかにする。また、『夜の寝覚』において主人公中の君の兄弟姉妹が担っている役割についても検討を行う。

### 2. 研究実施内容

ここまでの研究成果として、『夜の寝覚』における大君と中の君の比較から、両者の対比構造を明らかにし、また物語前半部における形容表現の使用傾向を分析することで、大君という人物が持つ役割や存在意義について考察を行った。特に、形容表現の中でも、主体の心理が軸となる形容詞「なつかし」「いとほし」の用例に着目し、大君が他の登場人物からどのように見られているかという観点から分析を行い、大君の存在が物語展開に大きく寄与していることを明らかにした。

具体的には、まず大君が登場する場面や、大君とその他女性の登場人物に用いられている形容詞・形容動詞を網羅的に調査して一覧表にまとめた。その調査結果を踏まえて、物語の語りの方と大君の人物像との関わりに注目しながら、物語は語り手や作中人物に大君をどのような人物として語らせているのか、という視点から、大君の描かれ方・語られ方を明らかにしていった。物語作家によって造型されてゆくというよりも、むしろ他者である作中人物たち（特に男主人公・中納言〈のち内大臣〉の役割が注目される）のまなざしや批評を通じて大君の人物像を浮かび上がらせてゆく、『夜の寝覚』という物語の手法にも迫るために分析を行った。

### 3. まとめと今後の課題

『夜の寝覚』の形容表現を分析すると、中の君が「なつかし」とされる一方で、大君は「なつかしからず」とされ、「け近き」中の君とは対比的に、「気高く」「もの遠き」女性として扱われている。大君は、中の君と対照的な形容表現が用いられて

いる女性であり、「限りなき人の際」とされながらも、それ以上の中の君と比較される。このような中の君を「より優る」女性とする構図は、中宮や女一の宮もその構図の中に入れ込まれているが、物語前半部においては、大君が主である。これにより、中の君の理想性、すばらしさがより一層引き立つという構造となっている。中の君と大君は対比されることで相対的に評価され、「限りなき人」である大君を踏み台にすることで、中の君は理想性を高めていくことが繰り返されていく。

『夜の寝覚』は対立する「姉妹の物語」ではなく、あくまで中の君の物語であり、大君はその女主人公たる中の君を賛美し輝かせる土台となっている女性である。しかし、大君なくして中の君は「特優」の女性にはならず、「なつかしからぬ」大君がいるからこそ、「なつかし」である中の君の理想性が際立つ。大君の評価は、中の君との関係性に依存しているが、逆に言えば、中の君の悲劇的な要素や理想の女性としてのあり方も、大君の存在によって形づくられている。大君は前半部において物語を展開させ、動かす原動力を持つ女性で

もあった。

前記の研究成果を修士論文の第一章としてまとめるとともに、十二月の院生発表会においては、「『夜の寝覚』の大君—「なつかし」「いとほし」を中心に—」の題目で発表を行った。

今後は、大君以外の兄弟姉妹関係についても考察を進めていく。

#### 4. この助成による発表論文等 研究発表

小川あかり「『夜の寝覚』の大君—「なつかし」「いとほし」を中心に—」（大妻女子大学大学院人間文化研究科言語文化学専攻第六四回日本文学専修大学院研究発表会、2022年12月22日、大妻女子大学千代田キャンパス）

#### 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成（DB2207）「『夜の寝覚』における大君・中の君姉妹の関係に関する研究」を受けたものです。